

## 高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の保存活用に関する令和4年度の検討事項

高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画の保存活用に関して、当面の課題について継続的に調査研究等に取り組んでいる。令和4年度の検討事項と進捗は以下のとおりである。

### 1. 高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（仮称）（新施設）設置について

令和3年度に策定した新施設の基本構想を踏まえ、令和4年度は全3回の新施設ワーキンググループを開催し、関係機関とも連携しつつ以下について検討している。

#### 施設整備の考え方

現在、新施設整備の基本方針、展開する事業活動に必要な諸室の機能の考え方を整理しているところであり、今後、新施設に必要な規模、配置を整理して、設置場所を検討していく。

なお、諸室機能については、「①保存・管理・メンテナンス」、「②展示」、「③教育・普及」、「④学芸活動（調査・研究）」、「⑤人材育成」、「⑥国内外とのネットワーク」、「⑦情報発信」等について、事業を展開するために必要な機能として、今後、必要な面積を検討するとともに、近隣施設との連携等についても検討していく。

#### 古墳壁画・石室石材保存管理室の考え方

古墳壁画・石室石材保存管理室には、古墳壁画・石室石材の保存環境、見やすい観覧環境、メンテナンスの観点が必要であり、令和4年度はそれらを満たすために必要な要件、機能の考え方を検討してきた。現在、これらの考え方と壁画・石室石材の大きさ等を考慮し、古墳壁画・石室石材保存管理室に必要な面積を検討している。

#### 展示の考え方

新施設には、壁画・石室石材とその他資料の展示、古墳や壁画に関する学術情報や保存の歴史などを伝えること、飛鳥地域のゲートウェイとして地域の理解や回遊を促すことが求められている。そのために「古墳壁画・石室石材保存管理室」、「常設展示室」、「企画展示室」、「ガイダンス展示室」等の展示の考え方について検討している。

## 2. 高松塚古壁画及びキトラ古墳壁画の保存活用に関する当面の課題と進捗

高松塚古壁画及びキトラ古墳壁画の保存活用に関する当面の課題については第 29 回検討会で示しているところであるが、令和 4 年度の主な課題の進捗を表 1、表 2 にまとめた。

新施設における壁画の維持管理、保存環境指針の策定、高松塚古墳壁画の新施設への壁画移動、展示等の活用のための調査研究であり今後も継続していく必要がある。

キトラ古墳壁画の『辰』、『巳』、『申』については、現在高松塚古壁画仮設修理施設で別置保管しており、新施設の設置に伴い今後のあり方を検討すべき段階にある。

表 1 高松塚古墳壁画に関する当面の課題と主な進捗

	主な課題	進捗
壁画 石室石材 漆喰	・ 当面の間の保存環境	・ 適切な保存管理・公開の基準となる保存環境指針の提案に向けた検討 ・ 施設内の環境をモニタリングし、保存環境を維持管理した
	・ 壁画材料の分析	・ 壁画色材についての分光分析を実施 ・ 壁面上で安全に情報を得るための分析機器を開発し、顔料についての X 線回折分析を実施 ・ 新施設への文化財の移動検討のための石室石材・漆喰の材料実験、SfM/MVS によるモニタリング手法の検討
	・ 壁画のメンテナンス	・ メンテナンスの継続による保存管理と現状把握 ・ 長期的なメンテナンス手法の検討
発掘成果 墳丘	・ 発掘成果の整理活用 ・ 墳丘の整備活用	・ 発掘成果や墳丘の情報のデジタルアーカイブ化や、公開時の乾拓体験等を実施 ・ 出土棺金具に関する新知見を基にした再現

表 2 キトラ古墳壁画に関する当面の課題と主な進捗

	主な課題	進捗
壁画 保存管理施設	・ 施設内の保存環境	・ 施設内の環境をモニタリングし、保存環境を維持管理した
	・ 別置壁画片の調査、今後の対応	・ 壁画色材についての分光分析を実施 ・ 泥を除去せずに『辰』、『巳』、『申』の凶像の情報を得るために、高分解能の蛍光 X 線分析調査を実施
	・ 壁画のメンテナンス	・ メンテナンスの継続による保存管理と現状把握 ・ 長期的なメンテナンス手法の検討
発掘成果 墳丘	・ 発掘成果の整理活用 ・ 墳丘の整備活用	・ 発掘成果のデジタルアーカイブ化や公開時の乾拓体験等を実施 ・ 整備後の墳丘の経過観察